

No.101



愛媛県 青少年赤十字だより

道徳科授業における宝の山です

青少年赤十字体験活動は



愛媛県青少年赤十字指導者協議会

会長 齊藤 照夫
(松山市立生石小学校長)

「えっ…。」

絶句でした。「青少年赤十字研究会に久しぶりに参加させていただきました時の率直な感想です。ご参加くださったという方々があまりにも少ないからでした。私が二〇代のころ、初めてこの研究会に参加しました折は、五〇〇名ほどの方々がご参加されておりました。そのイメージがございましたので驚愕でした。この後開催されました「青少年赤十字・赤十字奉仕団県大会」も同様です。

青少年赤十字といえば実践目標の「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」、そして態度目標の「気づき、考え、実行する」が、私の体にはしみついていました。しかし、現在はここまでの浸透や身体化はできていないように感じます。生石小学校も委員会活動実施主体として、JRC委員会を組織しています。委員会活動として毎月、「JRC週間」を設定し、青少年赤十字活動に誠実に取り組んでいます。委員になっていく児童は意識として確かに持っています。全児童となるといけません。ましてや身体化は

程遠いと思われれます。そこで、青少年赤十字への所属意識を高め、その精神が身体化されるまで醸成されることを目指し、次のことを提案させていただきました。

①全教育活動へ青少年赤十字実践目標の重ね合わせ

生石小学校であれば、全校児童九三三名で取り組む「米作り」活動を例にお話ししたいと思います。この活動は感謝の心をはぐくむことをねらいとしています。一方、感謝の心を形に表すための道徳的行動として、あいさつでお礼を、更に地域への奉仕活動へと取り組みます。加えて、この活動には安全に注意して行うということも大切です。つまり、本教育活動は「親善」「奉仕」「安全」といった、まさに青少年赤十字の実践目標に基づく活動と申せます。

②青少年赤十字体験活動が生かされた道徳科授業

先ほどの米作りを引用いたします。実践目標の「奉仕」「安全」は、道徳科の内容容項目のそれぞれ「勤労、公共の精神」

「節度、節制」に当たります。児童たちには明確にねらいを伝えます。例えば、「今回の稲刈りでは、生石の名人さんたちがたくさん来られ、みなさんのために上手な稲刈り、安全な稲刈りの仕方を教えてくださいます。教えてくださいましたとおりにして、安全に稲刈りをしましょうね。」と事前指導で徹底します。その後、稲刈りの体験活動に取り組みます。細心の注意を払い、安全な鎌の使い方をしている児童がいたとします。学級担任は「〇〇さん、とても安全に気を付けて、一所懸命に稲刈りしていたね。そのときどのようなことを思っていましたか。」と問髪入れずに尋ねます。児童が「ありがとうございました」という思いで、一所懸命行いました。自分も痛い目しないで済むし、みんなも喜んで笑顔になってくれると思うからです。答えました。続いて教師は「すばらしいです。安全に努め、けがをしないことは、自分だけがよいのではなく、みんなの喜びにつながるね。このことが『節度ある生活』ということになるね。」と意識させます。

この意識こそ、道徳的体験が「道徳的経験知」となった瞬間です。この経験を、道徳科授業で自己を見つめる際に想起させます。これこそが道徳科授業で大切なことです。

以上のように、今実践している教育活動に、青少年赤十字の視点を取り入れるだけです。教職員の意識の持ちようで、青少年赤十字活動は活性化し、児童生徒の道徳心が確かに育つ場となります。青少年赤十字活動は道徳科授業になくはならないものです。宝の山と申せましょう。

◆指導者協議会総会・研修会

四月二六日(金)日本赤十字社愛媛県支部・研修会室で、平成三二年度愛媛県青少年赤十字指導者協議会総会・研修会を開催しました。

総会では、事業報告と会計・監査報告に続き、事業計画説明と予算審議ののち、研究推進校による実践報告(四国中央市立中之庄小学校)と推進報告(伊方町立三崎小学校)がありました。

研修会では、防災教材「まもるいのちひろめるぼうさい」の活用について、概要説明とグループワーク「ドローイングチャレンジ」の体験をしていただきました。日頃は児童生徒に指導されている立場の先生方も、童心にかえって楽しみながら取り組んでいただきました。

教材の中には「コミュニケーション力」を育むプログラムが掲載されていますので、ぜひ各校でも活用してみてください。



◆高校生連絡協議会「春の総会」

五月二五日(土)日本赤十字社愛媛県支部・研修室で、青少年赤十字高校生連絡協議会「春の総会」を開催し、五校から四八名の参加がありました。

今回のグループディスカッションは「KYT(危険予知トレーニング)」を体験し、様々なパターンの危険を予測し、その対応について話し合ったことを発表しました。



日常生活の中で、想像すること、「気づき、考え、実行する」行動パターンを身に着けること、日頃からのコミュニケーションをしっかりとることの必要性を学習した総会でした。

◆リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会に参加して

東温市立北吉井小学校 教諭 藤原拓郎

五月二四日から二六日の三日間、リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会に参加させていただきました。様々な活動を通して、得るものがたくさんありました。特に印象に残った活動を紹介します。

「防災教育プログラム」では、体験活動を通して「まもるいのちひろめるぼうさい」の有用性の高さを感じました。発達段階や災害種に応じて、どのように防災教育を進めていけばよいかまとめられ、すぐに授業に使えると感じました。

「国際理解」の「グループをつくりましょう」では、異文化理解について考えました。顔のいろいろな部分に、様々な色のシールを貼られ、「しゃべらず、グループをつくりましょう」とだけ指示がありました。ジェスチャーで共通点を探し、グループをつくりました。そして、シールを一個も貼られなかった人だけが、ぼつんと残りました。これがねらいだったのです。私たちは、「グループをつくりましょう」から、勝手に想像し、共通点を見つけようとしていました。「話せない」言葉が違う「共通点を見つけ



る」違いを排除する」とすると、自分とは違う人への理解の難しさ、大切さを考えさせられた活動となりました。

この研修に参加し、JRCの理念やJRC活動を推進している理由など、より深く学ぶことができました。「気づき・考え・実行する」の態度目標を念頭に、児童が主体的に活動できるようにしていきたいです。

◆指導者講習会

七月二七日(土)〜二八日(日)、「えひめ青少年ふれあいセンター」で、青少年赤十字指導者講習会を開催しました。

今年は一六名の方々の参加があり、にぎやかな中でプログラムを進めていくことができ、充実した講習会になりました。

参加者の声

今治市立常盤小学校 教諭 富士原知子

青少年赤十字の活動目標である「気づき・考え・実行する」を、本校児童もこれから更に活発にしていきたいと思いい講習会を受講しました。

アイスブレイクを実際に体験し、小学生でも分かるルールで仲間意識が高まると思いました。二学期、早速学級でやってみようと思います。

藤井先生の講義では、先生の経験から教員として大切な事を学びました。①気づかせる雰囲気づくりに努めること、②活動したら必ず評価すること、③成果を実感させてやること、④適切な助言で新しいアイデアを生み出すこと、以上四点を踏まえて効果的な活動となるよう促すのが、教員の使命だと感じました。

防災教育プログラムでは、仲間とともに何かをする楽しさや認められる喜びを改めて感じる事ができました。実際に学級でも行い、仲間意識が高められたらいいなと思います。

応急手当では、三角巾を使って基礎を学び、身近な新聞紙等でも手当に役立つことを知りました。しかし、応急手当なので、適切に処置してもらうことが先決だと思えます。結び方など、応急手当以外でも有効活用できそうです。

フィールド・ワークでは、メンバーみんなでチャレンジできてよかったです。次のお題は何か楽しみましたし、一つずつクリアしていくことに絆が深まったと思います。児童にも、この楽しさを味わってもらいたいと思えます。宿泊研修のときに今回の経験を活かしたいと思えます。

非常食体験では、少しの水でご飯が炊けるといことが分かりました。食べる事ができてよかったです。

この二日間で、青少年赤十字の活動について以前よりも分かりました。スタッフの皆様がとても念入りに準備をしてくださり、充実した二日間でした。二期から、学校でできることから始めたいと思えます。ありがとうございました。



◆高校生・中学生・小学生

合同トレーニング・センター

八月二日(金)～四日(日)、「えひめ青少年ふれあいセンター」で、青少年赤十字高校生・中学生・小学生合同

トレーニング・センターを開催しました。

本トレーニング・センターでは、高校生が二泊三日、小・中学生が一日遅れて合流する一泊二日の日程で、異校種の縦割りグループで活動しています。

参加者の声

新田高等学校 一年 篠原穂乃花

今回の合宿は、私にとっても良い体験になりました。

一日目は、赤十字について話を聞いたりして、トレーニング・センターについて学びました。

二日目からは、小学生が来て一緒に活動をし、楽しく協力して学ぶことができました。最初は仲良くできないかすごく不安でしたが、ひとこと話しかけてみれば、一瞬で仲良くなる事ができ、少しの勇気が本当に大切なんだと感じました。

三日目は主にフィールド・ワークでした。すごく疲れましたが、班の人たちと協力して活動を楽しむ事ができました。

この三日間の活動を通して、リーダーシップの力が少し備わった気がします。特に小学生が来てからは、今まで後輩だった私が先輩という立場に変わり、リードをすることの大変さを知ることができました。また、AEDの使い方、障がい者スポーツ、赤十字、リーダーの大変さなど本当に沢山のことを学びました。

トレセンで一番大切にしていた「気づき・考え・実行する」を、三日間常に心掛けて行動できたので良かったです。これからの生活に、今回のトレセンで学んだことを活用して、今までよりいいJRC、VS活動ができるように心がけていきたいです。

西予市立宇和町小学校 六年 薬師寺遥名

私はこの活動に参加して、参加する前と変わったところがあると思います。

まず、チャレンジすることの大切さが分かりました。失敗をおそれていたらいけないと、トレセンのスタッフや先生は何回も言っていました。実際、新聞紙をまるめてタワーをつくったときには、自分の意見を言う事ができて行動をおこす事がなかなかできませんでした。しかし、そんな中でも考えをすぐ行動に移すKさんやMくんはすごいなと感じました。だから、私もがんばろうと思う事ができました。気づき・考え・実行するは簡単そうに思えても、やってみるとかなり勇気がいることだと気づきました。でも、これからは、今よりできるようにここがけて生活したいです。

この二日間で、やってみると難しいということがたくさんありました。例えば、AEDの使用法を教えてくださいいただいた健康安全プログラムです。前で講師の方が人口呼吸や胸骨圧迫をしているのをみているときは、できそうと思ったけど、やってみると力を強くいれないといけないで難しかったです。できると思いこむのではなくて、実際にやってみる事が大事だと分かりました。

私はこの活動に参加して少し成長することができたと思います。ここで学んだことを生かして、これから生活することができたらいいなと思います。



第六一回青少年赤十字研究会を終えて



伊方町立三崎小学校

校長 柳 希彦

去る一月一日、県内各地よりたくさんの皆様にご参加いただき、研究会を実施いたしました。

研究校の指定を受けて、約一年半、「ふるさとに生き、主体的に学び合い、考えを深め合う児童の育成」を目指し、研究を進めてまいりました。

旧三崎町には、小学校が九校ありましたが、昭和五二年より統合を重ね、現在、三崎小学校一校となっております。児童数も年々減少し、現在、全校児童四八名の小規模校ですが、地域の方々の学校に対する思いは熱く、多くの方のご支援のもと、体験活動を通して、児童の自己有用感が高まりつつあります。昨年度、様々な取組をJRCの視点で見直し、「気づき、考え、実行する」力を育てようと、活動内容の工夫を図った結果、地域に学びながら成長していく児童の姿が多く見られるようになってきました。また、本校は三崎中学校と隣接しており、三崎保育

所や三崎高等学校も近隣にあるという立地条件を生かし、交流活動を推進することで「絆」を深めています。活動を行うに当たっては、地域の方々にご支援いただき、地域との「絆」を深めるとともに、改めて地域の素晴らしさを体感する良い機会ともなっています。しかし、まだまだつたない取組で、さらなる推進の必要性を感じています。この度の取組で得た成果をもとに、今後も引き続き研究を進めてまいりたいと思います。今回指定を受けましたことに、改めて感謝申し上げます。最後になりましたが、本日まで私たちをご指導くださり、また、支えてくださいましたすべの皆様にお礼を申し上げます、結びとさせていただきます。誠に、ありがとうございます。ございました。



研究主題の概要

《研究主題》

ふるさとに生き、主体的に学び合い、考えを深め合う児童の育成

《研究目標》

青少年赤十字の考えを基に、ふるさとに生き、主体的に学び合い、考えを深め合う児童を育成する。

《研究内容》

一、JRC 関連学習指導計画の見直しと関連学習の実践
二、確かな学力を身に付ける学習指導の工夫

《体験活動部》

一、進んで関わり、生き生きと活動する体験活動の工夫
二、望ましい環境づくり

《研究の成果》

《授業研究部》

・言語活動を取り入れた授業改善を行うことで、友達と学び合い、助け合って学習するようになり、認め合いながら意欲的に学習する姿が見られるようになりました。

・ICTを効果的に活用することで、学習意欲を高めたり、視覚による内容の理解を図ったりすることができました。

《体験活動部》

・相手の立場や気持ちを考えて行動すること、地域に伝わる文化等を学ぶことができました。児童数が少なくなる中、地域との交流は、多様性を感じられる大事な機会となっております。

・地域コーディネーターの支援により、地域の方々の協力が得やすくなり、交流の機会を多く持つことができました。その結果、児童一人一人の様子や学校の取組を知っていたいただき、共に児童を育てていくという雰囲気を感じ、大変ありがたく思っています。

《研究の課題》

・JRC 週間においては、曜日ごとに活動を位置づけています。マンネリ化しないように、より一層、自主的・主体的な取組となるよう、一人一人に声掛けをしていきたいです。
・本校の特色である保・小・中・高の連携を生かしたり、地域コーディネーターやボランティアの方と協力したりしながら、今後も地域とのつながりを大切にした教育活動に取り組んでいきたいです。



研究会報告

伊方町立三崎小学校

一【集会・公開授業】

○青空タイム「保健集会」

生活リズムの替え歌やアンケート結果の報告、シヨート劇「睡眠列車の旅」などを通して、睡眠の働きや大切さについて全校児童に発信しました。楽しみながら睡眠の大切さについて理解を深めることで、自分の生活をふり返り、見直していこうとする気持ちが高まりました。



○一年 道徳

ともだちとたすけあつて
「ゆつきとやつち」

友達のことを一番に考えて行動した登場人物の気持ちを通して、友達を大切にすることや友達の良さについて考えました。また、助け合うことで、お互いの気持ちが温かくなることも感じる事ができました。終末には、自分たちの生活の様子の写真や「よい子がん

二【分科会】

○第一分科会

教育課程の実施に青少年赤十字をどう生かせばよいか

「被災地への訪問者（ボランティア）が写真撮ることに許可しますか。」ということについて、児童は、実際の場面を想像しながら考えました。写真資料から、被災地での生活の様子を理解していくうちに、心情面でのつらさ・悲しさが見えてきたようです。災害復興ボランティアに関する資料から、必要な心構えを理解することができました。また、被災者へ寄り添うボランティアのあり方について話し合い、考えることができました。

○五年 学級活動

「自分だったらどうする」

「被災地への訪問者（ボランティア）が写真撮ることに許可しますか。」というところ、友達と助け合っていることに気が付きました。学習を通して、相手の立場に立ち、仲良く助け合おうとする意欲につながっていくことができました。



指導助言 渡部 憲悟 先生
(愛媛県教育委員会 義務教育課指導主事)

○第二分科会

地域と一体となった児童生徒の健全育成に青少年赤十字をどう生かせばよいか

今治市立波方小学校の発表「インタビューを新聞にまとめ、パンフレットを作成する活動を通して、郷土について知識を深めた。」を受けて、情報交換を行いました。地域の奉仕団や婦人会から、草引きなどのボランティアや行事への参加の仕方について意見が出されました。地域とのつながりが青少年赤十字の健全育成につながっています。



青少年赤十字の理念と学校教育目標・研究主題を結び付け、授業や体験活動において教職員全員で意識された取組をされています。授業研究においては、授業のねらいと青少年赤十字との関連が明確になっています。体験活動では、保・小・中・高といった異校種間交流が行われており、さらに地域コーディネーターとの連携を図り、地域との協働的な取組がされています。これらは青少年赤十字の目標そのものであり、これからはますます活動の充実が期待されます。

講演 中井 和 先生

(地域学校協働本部コーディネーター)

中井先生は、三崎地域のボランティアの方と学校とをつなぐコーディネーターとして、長年にわたり活躍されています。先生は、毎回事業に参加され、子どもたちとも顔なじみになっています。講演では、学校・家庭・地域が連携・協力して子どもを育てることの必要性、それによる学校教育の充実や生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上など、期待される効果、また、学校支援ボランティアをされている方の思いについて、お話していただきました。

◆高校生連絡協議会「秋の総会」

一〇月一九日(土)日本赤十字社愛媛県支部・研修室で、高校生連絡協議会「秋の総会」を開催し、五校から三〇名の参加がありました。

午前中は、実践プログラム「身近なものを使用した応急手当」で、レジ袋や新聞紙などを使った骨折の固定や腕の吊り、毛布の運搬などを体験しました。

午後は、「献血くあなたができる人助け」をテーマに、献血の基本的なことや現状を学習し、若年層に献血に興味を持って参加してもらうための方策についてグループディスカッションと発表を行いました。

現在、高校生メンバーは、毎週土曜日に献血ルーム前で呼びかけボランティアを実施していますので、今回の学習成果を活かしたボランティアになることを期待しています。



◆青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会

一月一六日(土)松山市「えひめ青少年ふれあいセンター」で、青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会を開催しました。

総勢一九三名の参加があり、分科会では、青少年赤十字は小・中・高合同の縦割り三分科会に分かれて「わたくしたちの活動・他校種の活動を知ろう」をテーマに、奉仕団も三分科会に分かれて「赤十字奉仕団と

して取り組むことのできる地域における防災活動を考えよう」をテーマに話し合い、他校・他団の活動や情報を共有しました。



全体会では、「アジア・大洋州災害対応衛生給水キット」整備のための一円玉募金(大会当日受付分…一八六、六四五円)の贈呈や、長年、活動が続けている学校・指導者の表彰、伊方町立三崎小学校と四国中央市伊予三島赤十字奉仕団の活動報告がありました。



◆指導者中央講習会に参加して

今治市立鳥生小学校 教諭 大宇根悠希

私は、一月二三日に東京都の赤十字本社で行われた、指導者講習会に参加させていただきました。テーマは、「いじめや不登校について青少年赤十字ができること」でした。私は、いじめをなくすためにできることを学びたいと思って参加しました。

青少年赤十字が目指すところは、優しさや思いやり

年に一度、県内の加盟校と奉仕団が一堂に会するこの大会で、新しい仲間を増やしていただけることを目標に、今後も開催していきます。



の心を引き出し、主体的に行動できる子どもを育てることです。青少年赤十字の活動に取り組み、継続していけば、人の心を踏みにじるいじめを許さない、優しさや思いやりをもった子どもを育てることにつながると分かりました。また、特別に何か始めないといけないわけではなく、普段の教育活動に赤十字の考えや方法を取り入れていくことで実践できると分かりました。例えば、何か問題が起こったとき、教師側が答えを言うのではなく、「何ができるかな」などと問い掛け、子ども自らが気づき、考え、実行できるように支援したり、命を考えるとときに、本社の「まもるいのちひるめるぼうさい」などの教材を使って、命の尊さや大切さについて深く学び、命や尊厳を脅かすいじめを許さない態度を養ったりするなど、赤十字の考え方や膨大な資料を手段として扱うことで、子どもが気づき考えるきっかけになると思いました。



◆指導主事対象研究会に参加して

愛媛県教育委員会義務教育課

指導主事 渡部憲悟

一月九日、東京都で開催された指導主事対象の研究会に参加させていただきました。充実した研修の

中でも、私にとって大きな学びとなったのは、次の二つです。

一つ目は、学校教育と青少年赤十字とのつながりです。学習指導要領は、子どもたちが活躍する未来をイメージし、その未来をたくましく生き抜く力の育成を目指して考えられています。総則や特別の教科道徳、特別活動等の目標や内容に、青少年赤十字の実践目標を落とし込んで捉えることにより、学校における様々な教育活動を、一層価値あるものへと高めることができると考えられます。

二つ目は、青少年赤十字の活動がもつ魅力です。青少年赤十字で大切にされる、「気づき、考え、実行する」という主体性は、学校での様々な教育活動において生かされるものです。そこで、このフィルターを通して、学校生活を振り返ってみることにより、子どもたちは様々な活動において自己評価することができ、教師は教育活動の価値付けをすることができます。また、実際の活動を通して、必要な知識や行動力を身に付けられるリーダーシップ・トレーニングセンターや「まもるいのちひろめるぼうさい」を活用した防災教育は、各地域や各学校において推進すべき有意義なものだと感じました。

今後も、学校教育と青少年赤十字を連携させた活動を実施することの素晴らしさを、積極的に発信していきたいと思えます。



◆青少年赤十字スタディー・センター

本事業は、三月二日(日)～二六日(木)、山梨県山中湖村「東照館」で開催し、県内高校生メンバー二名が参加する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、残念ながら中止となりました。

スタディー・センターでは、各県の高等学校青少年赤十字活動の中心となるリーダーの養成を目的としており、その目的達成のために①リーダーとして求められる知識、技術を養う、②自主的、積極的な行動によって生活運営を進め、グループ活動とリーダーシップの能力を養う、③赤十字の目的を理解し、地域での具体的な行動に結びつける能力を養う、④参加者同士の仲間意識を育むという目標を掲げて運営されます。例年、「参加する前は不安だったが、共に活動をしていくうちに、最後は仲間との別れがとても寂しかった」という声上がる事業の一つで、ここでのつながりは大人になっても続くものとなっています。



令和二年度 事業計画

- 四月 県指導者協議会総会・研修会（日赤支部）
- 五月 第一回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
高等学校指導者協議会（日赤支部）
高校生連絡協議会・春の総会（日赤支部）
- 六月 賛助奉仕団総会（松山市内）
全国指導者協議会総会・研修会（東京都）
- 七月 全国賛助奉仕団協議会（福島県）
指導者講習会（松山市内）
- 八月 小中高合同トレーニング・センター（松山市内）
第二回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
- 十月 中・四国ブロック賛助奉仕団協議会（岡山市）
中・四国ブロック指導者協議会（山口市）
高校生連絡協議会・秋の総会（日赤支部）
- 十一月 国際交流事業（東京都）
第六二回青少年赤十字研究会（東温市立北吉井小学校）
青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会（松山市内）
- 一月 指導主事対象研究会（東京都）
- 二月 第三回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
- 三月 高校生スタディー・センター（山梨県）

【新規加盟校・園(所)】 ※(再)は再加盟

- 新居浜市立中萩中学校
- 今治市立伯方小学校（再）
- 久枝幼稚園（松山市）
- 梅花幼稚園（松山市）
- 認定こども園潮見幼稚園（松山市）
- 大洲市立喜多幼稚園（再）
- 宇和島市立和霊小学校（再）
- 宇和島市立城南中学校（再）

計 8校（園）



発行・編集

愛媛県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社愛媛県支部

〒790-0854 松山市岩崎町二丁目3-40
TEL 089-921-8603 FAX 089-932-9160
<http://www.ehime.jrc.or.jp/>

（発行日 令和2年3月31日）

令和元年度
青少年赤十字加盟状況

校 種	校 数	メンバー数
幼稚園・保育所	84園	8,680名
小 学 校	178校	49,047名
中 学 校	56校	14,331名
高 等 学 校	14校	1,557名
計	332校	73,615名